

★ 「企業子宝率」をアップさせて企業イメージもアップ！

突然ですが、「企業子宝率」という指標をご存知でしょうか？

(株)東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長の渥美由喜(あつみなおき)氏が独自に考案した指標で、合計特殊出生率の企業版ともいえるものです。

合計特殊出生率は、一人の女性(15~49歳)が生涯に産む子どもの数と定義され、長期的な人口推移の指標として活用されていますが、当然のことながら“産む”ということに焦点が当てられています。それに対してこの企業子宝率(正式名称は「企業の合計特殊子宝率」)は、男女を問わず一人の従業員(15~59歳)がその企業に在職中にもつことが見込まれる子どもの数と定義されており、女性だけでなく男性を巻き込んでいる点と、どちらかというところ“育てる”ということに焦点を当てている点が異なっています。

具体的には、以下の基準で子どもの数を把握します。

- ・個人、法人を問わず、常用雇用者数が10人以上の企業を対象とする。
(10人未満の企業まで対象とすると、1人の数値が全体の数値に与える影響が大きく、統計数値としての信頼性が低くなってしまうため)
- ・子どもの年齢に関係なく、既に成人している子どもや独立している子どもも含める。
- ・実子は扶養の有無を問わず、養子は扶養している場合のみ含める。
- ・同一企業に夫婦で就業している場合は、夫婦それぞれでカウントする。(ダブルカウント)

このようにして把握された企業子宝率と職場環境を表す様々な数値との間に、実に興味深い相関関係があることがわかってきました。平成23年度から全国の自治体のトップを切ってこの企業子宝率による評価を導入している福井県の平成26年度調査結果は以下のとおりです。

評価項目 \ 企業子宝率	1.0未満	~1.5未満	~1.8未満	~2.0未満	2.0以上
有給休暇取得日数(年間・人)	5.4日	6.5日	6.7日	6.9日	7.7日
〃 取得率(年間・人)	33.3%	38.0%	40.2%	41.5%	47.3%
所定外労働時間数(年間・人)	160.3H	100.1H	68.4H	70.9H	43.6H
早期離職率(直近3年間)	21.0%	21.1%	20.8%	12.5%	8.7%

※企業子宝率調査協力企業のうち、県就業環境基礎調査のデータがある企業(424社)の分析

この調査結果から、企業子宝率が高い企業ほど有給休暇取得日数が多く、取得率も高く、さらに残業時間が短く、早期離職率が低い傾向にあることがわかりました。つまり、企業子宝率の高さは、子育てしやすい職場環境を整えてくれる働きやすい企業のバロメーターであると考えられ、このことを世の中に広く周知させることができれば、企業イメージのアップや有能な人材の確保につなげていくことが可能となります。

先日、テレビの経済情報番組でもこの企業子宝率が取り上げられ、育児関連の制度が充実し、その活用が進んでいる大企業であっても企業子宝率はむしろ低いくらいで、地方の無名の中小企業の方が高い数値を挙げているとのことでした。中でも企業子宝率が2.17の静岡県焼津市にある住宅リフォーム会社では、女性従業員全員が働きやすさを求めて転職し、売上高が5年で倍増したとのことでした。子どもを産み育てやすい社会の実現のために何が必要か、考案者の渥美氏は次のように言っています。「仕事と育児の両立を支援する制度も重要だが、それ以上に従業員一人ひとりの家庭の事情に合わせて臨機応変に柔軟な対応ができる職場風土が大事である。そうした職場風土を定量化(目に見える形)するために、「企業の合計特殊子宝率」を考案した。」地方活性化のためにも、この新たな評価指標を浸透、定着させたいものです。(工藤克己)